

議員全員協議会

日 時	令和 4 年 3 月 18 日（金） 開会中	14時16分 開会 16時17分 閉会
場 所	相良庁舎 4 階 大会議室	
出席議員	議長 16 番 植田博巳 副議長 15 番 村田博英	
	1 番 石山和生	2 番 谷口恵世 3 番 絹村智昭
	4 番 名波和昌	5 番 加藤 彰 6 番 木村正利
	7 番 松下定弘	8 番 種茂和男 9 番 濱崎一輝
	10 番 原口康之	12 番 太田佳晴 13 番 中野康子
	14 番 大石和央	
欠席議員	11 番 大井俊彦	
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平 書記 森田さおり	
説明員	市長、教育長、建設理事、総務部長、企画政策部長、政策監、 教育文化部長、教育総務課長、学校教育課長、都市住宅課長、 教育総務課総務係総括主任	
傍 聴		

署名 _____ 議長

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

それでは、議員全員協議会を開催いたしたいと思います。

2 協議事項 (1) 牧之原市学校再編計画（最終案）について

○議長（植田博巳君）

協議事項につきましては、牧之原市学校再編計画（最終案）についてという事項でございます。これについて、ただいまから始めさせていただきたいと思います。

説明を。教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

議長からご説明がありましたとおり、学校再編計画「未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（最終案）について」ということで、ご説明をさせていただきます。

資料番号1のほうを見ていただきたいと思います。

今回、この最終案を決めていくに当たって、パブリックコメントを実施しております。1月から約1か月をかけて行いました。

1か月かけて行いましたが、提出件数は65件、1件の中に複数の意見がございましたので、項目別に少し仕分けをさせていただいて65件、意見数としては157件となります。

意見の内訳としては、下の表にございますけれども、資料を見てもらいたいですけれども、資料2に意見そのもののデータ、それから、項目、意見数、157件に分けたものは資料3に皆様のほうへ配布してあります。

下の意見の内訳のところを少し説明させていただきます。

まず、項目に分けた中で、全体的な感想的なものが15件ございました。それから、多いところだと2番、3番の学校区について、3件と10件ということで牧之原小・中学区、あるいは御中学区の件について10件、全体の学校区について3件ということで合計13件とございました。

明確にいろんな意見がございましてけれども、例えば、2校前提で説明、そういった進めたのではないかというようなこともございましてけれども、ここにつきましては、これまで、しっかり手順を踏んできております。

学校再編計画を2年間かけて、策定委員会が素案をつくっていただきましたけれども、その時点ではゼロベースで、まずは始めております。様々な意見の中で、例えば1校案、2校案、牧之原学区含めて3校案、あるいは全校残した場合、様々な協議をされた中で行っております。

その中で2校案というのがいいんじゃないかというようなご意見が、大体、集約ができたんですけれども、市民の意見も聞きたいということで、その後、策定委員会として市民意見交換会を

行い、その中でも市民の方にどんな学区の分けがいかということ、やはりご意見を聞いた中でございます。

その中では、やはり少数ではございますけれども、全校残したほうがいいとか、一つの学区でいいんじゃないか、あるいは海側と山側に分けたほうがいいんじゃないかとか、そんな様々な意見がございましたけれども、体制としては、策定委員会が提案しました2学区、これが多かったということで、そういったことで策定委員会としては、2校、二つの学区ということで、それを前提に様々な課題等を検討してきたところでございます。

そういった経緯をたどってきているということで、ご説明をします。

それから、意見の内訳のほうに戻りますけれども、7番目、教育内容、これが17件ということで意見としては一番多かったところでございます。

内容的には、これまで大切にしてきました体験学習であるとか、地域愛、そういったものを育むような教育、それからアースランチ、こういったものを継続していただきたいとか、ICT教育、インクルーシブ教育、あるいは外国人児童への対応と、そういったようなところの意見がございました。

8番の子どもの支援が13件ございますけれども、ここは、いじめであるとか、環境が変わることによって子供たちへのケア、あるいは多様性、あるいは特別支援学級、そういったところのご意見がございました。

それから右側にいって、18番、市民意見ということで、全体からの意見、賛成、反対も含めてこういったところもございました。全部で157件のご意見があったところでございます。

全体的な状況でございますけれども、今回、意見の提出を紙ベースではなく、オンラインの入力フォームを用意いたしまして、パソコンであるとか、スマホから提出できるようところをいたしました。そうしましたら、65件中60件が紙ベースではなくて、パソコン、スマホ等の入力フォームからの提出でございました。

たくさんいただいて本当にありがたかったんですけども、パブコメのハードルの高さというのが、今回これによってなくなったというか低くなったということで、よかったなとは思っております。

ただ、非常にしっかり書いていただきましたので、その中で、質疑、質問等もあったところでございます。ここは、今後も丁寧に説明を継続していく必要があるなというふうに感じたところでございます。

パブリックコメントの概要については以上です。

続きまして、このパブリックコメントに併せまして、保護者に対してのオンライン説明会というのを実施いたしました。

これは、意見交換会等に出れなかった方、あるいは出れないような方を対象に意見交換をしたいということで行ったものでございます。

休日と平日の昼間に2回、それから平日の夜に2回行いまして、合計で20の方が参加されて

おります。申込みはもう少しあったんですが、当日、ご都合が悪かった方がいられて20人ということでございます。

少人数とのオンラインで対話という形になったので、非常に濃い内容になりました。

意見の傾向としては、女性の参加者からは小中一貫教育や通学方法、そういった実際にお子さまが通われたりする場合の不安であるとか、どういうふうになっているのかなというような、具体的内容の意見、質問等がございました。男性の方からは、今後の進め方であるとか周知方法、そういったところのご意見が多かったところでございます。

今回これをやりまして、理解を深めることができたなとは思っておりますし、中には産後間もない若いお母様から参加していただきまして、こういったオンライン開催というのはいいなということで、その場で喜ばれたということもございます。

これはオンラインということで、若干、参加する方のハードルは高いところがありますが、非常にいい意見交換でございましたので、今後もこういった方法も有効ではないかなというふうに感じたところでございます。

続きまして、教職員アンケートも行いました。これは校長会を通して全教員約300人に対してアンケートを行ったところでございます。

こちらのほうの意見の傾向としては、やはり現場の方でございますので、義務教育学校や小中一貫教育に前向きな意見が非常に多かったというところと、対して、今後どのように進めるのかということで、早期にロードマップを示していただきたいと、そういうようなこともございました。

それから、やはり教職員の体制づくり、あるいはすり合わせ、小学校、中学校とのすり合わせ等、そういった必要性等の意見がございましたので、ここについては、これから、まさに学校現場のほうに入って進めていかなければならないところだなということで、こちらのほうも今後とも参考にしていきたいと思っております。

以上のようなご意見を反映いたしまして、今回、計画の最終案を作成いたしました。こちらのほうは、資料4の修正一覧、それから資料5に最終の計画（案）をおつけしました。

この後、またご説明をいたしますけれども、概要について、私のほうからもう少し説明いたします。

今回、計画のほうに反映した修正箇所は30か所になります。字句の修正であるとか、そういったものは除いたところで30か所でございます。主には、ソフトの部分の修正が多かったということでございます。

その下に少し書いてありますけれども、まず、計画の名称から「仮称」というのを取らせていただきました。最初が「仮称 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画」ということにしてありましたけれども、これを正式の名称としたいということで「仮称」を削除させていただきました。

それから、教職員への理解、説明を経ておりますので、「義務教育学校を目指す」というよう

な表現であったところを今回、「義務教育学校とする」というような表現にさせていただいております。

それから、教育のソフト面については、不登校であるとか、外国人児童・生徒等、あるいは教職員組織などの内容について書いてあったんですけども、分かりやすくするために、項目の変更であるとか、説明、加筆をしたところがございます。

ハード面については、将来負担についての心配をするご意見がございましたので、ここについては、「長期的に管理しやすい施設」という項目を追加しております。

それから、計画の後ろに資料編を追加するということが、全体が分かりにくいということが、ご意見としてありましたので、体系図、それから市民参加の状況、それからベースとなりました教育のあり方に関する方針を添付するような形でしております。

それから、SDGsのロゴを、全体に該当するロゴを追加したというところがございます。

この計画案の内容を、今、概要でご説明しましたけれども、計画の本編のほうを少し説明させていただきますので資料5を開いていただきたいと思います。それから、資料4は修正箇所のものなんですけれども、お手元に紙のものをおわけしましたので、iPadのほうは計画案を見ていただいて、紙のほうと併せて確認をしていただきたいと思います。修正箇所につきましては、赤字で書いてある部分になります。

では、説明の内容については、教育総務課長から説明をさせていただきます。

○議長（植田博巳君）

教育総務課長。

○教育総務課長（水野敬子君）

よろしく願いいたします。

それでは、タブレットの画面のほうは資料5を、お手元の資料は資料4をご覧ください。

部長から概要の説明がありました。こちらの修正一覧については、資料4のほうで左側が意見、そして次に変更点、どのような項目を直したのか、そして資料5のページを次に入れてあります。誰からもらった意見なのかが、一番右側に入れてあります。

それでは、1番から順に説明させていただきます。1、2については、先ほど部長から説明があったとおりでございますので、3を説明させていただきます。

それでは、資料5の10ページをご覧ください。3番の修正一覧のところですが、就学前の子供の入学後の心配です。

これは、学校再編計画策定委員会でも幼児教育と義務教育学校との円滑な接続が協議されておりましたけれども、就学前の子供たちがスムーズに学校に慣れることができるようにということで、10ページの真ん中辺りの赤字に書いてあります「また、子どもたちに次代を切り拓く力を育むためには、義務教育の9年間だけでなく、幼児教育と円滑な接続や、高等教育とのつながりも大切です。教育的なつながりを確保するための仕組みづくりをしていきます」と加えさせていただきます。

4の栽培や企業、海を活用した活動等、地域に根づいた活動の機会の充実。こちらは、資料5のタブレットのほうは12ページをご覧ください。

ご意見の中で、牧之原市だからこそできる自然や生活に関する知識、技術が身につく体験学習の機会を増やしてほしい、将来、地元の自慢ができる子供が育つよう、牧之原市でしかできない体験ができる義務教育学校を希望する、地域愛を残す取組をしてほしいなどのご意見がありました。

これを受け、12ページの真ん中のところの赤字のところ。「牧之原市らしいリアルな体験」の前に、「牧之原市の地域資源を活かした」というところを書き加えさせていただいております。

つぎの修正箇所、5番です。1学級の人数が分からない、ですが、こちらにつきましては、資料の15ページです。

1学級の1クラスの人数は35人は多過ぎると思うなどの質問や意見などがありました。

これについては、文部科学省の基準に基づいて学級編制が行われており、市が独自に決めるものではありません。特に、静岡県では全学年を対象に学級編制基準を35人としておりますので、15ページのところに、「1学級の人数を35人とする」と追記させていただきました。

次に、修正箇所の規模が大きくなっても子どもたちに目が行き届く仕組み、こちらについては、計画の18ページをご覧ください。学級の人数と合わせて規模が大きくなると、子供たちに目が行き届かなくなるのでは、との心配する意見も聞かれます。

初期の小中一貫校には様々なデメリットが指摘されておりましたけれども、現在は、それらを先進事例を基にデメリットを解消する策を講じている学校が多くあります。新しくできる学校は、1学年3学級から4学級であり、文部科学省の指針という適正規模となることで、大規模校を目指すものではありません。学級数も多くなれば学級担任だけでなく、級外職員も配置されることなどで、単学級の学級に比べ、教員1人当たりの児童・生徒数が多くなることはありません。

市としましても、人的サポートをして目が行き届くきめ細かな指導を実現していきたいと思っておりますので、18ページのところに「人的サポートによる子どもたちへのきめ細かな支援と、成長過程に応じた教育課程を編制することにより、」ということを追加させていただいております。

修正箇所の7です。不登校児童・生徒への支援が薄い。行きしぶり等への対応がない、というところで、計画の19ページをご覧ください。こちらにつきましては、現在の支援と今後の支援を19ページに記載させていただいております。

赤字のところに「現在、学級に入ることが難しい子どもには、中学校では、別室登校する場所をつくり、心の相談員がサポートに入っております。小学校では、別室登校や保健室登校等、子どもの状況に応じて対応をしています。また、学校に来ることが難しい子どもには、適応指導教室を設置し、学校と連携して相談員による指導ができるようにしているところです。新しい学校では、みんなが学校を楽しんでいるよう、日頃から子どもたちに寄り添った指導や活動をしていきたいと考えています。しかし、学級に入ることや学校に来ることが苦しくなってしまう場

合には、子どもたちの状態や気持ちに合わせ、学級、別室、適応指導教室等、自分の居場所や学習機会を保障する場所を、子ども自身が選択できるようにするとともに、個々の状況に応じた適切な支援ができるようにします。」というところで追加をさせていただきました。

次の修正箇所⑧、⑨、⑩については、関連がありますので、併せて説明をさせていただきます。

外国人児童・生徒への教育支援・共に学ぶ環境について、意見をいただいております。当初は18ページにありました(1)の学びのサポート体制に日本語指導をするバイリンガル相談員の配置として載せてあったんですが、今回、修正をし、20ページにインクルーシブ教育の充実の中に③の外国人児童・生徒等への支援という項目を追加させていただきました、内容も厚くして追加をさせていただきます。

これによりまして、19ページにありましたインクルーシブ教育の充実に①の多様性への対応、②の特別支援教育というように①と②を入れ替えさせていただきます。

次の11、12ですけれども、こちらは計画案では22ページになります。ふだんから英語が聞こえ、いろいろな国の人とコミュニケーションが取れる、外国人児童・生徒等と共に学ぶ環境、グローバルな人材育成や多文化共生の考え方を、というご意見で22ページのところに、異文化に触れる・外国語を話す機会の拡充のところに、赤で追加をさせていただきます。「グローバルな人材育成に努めます。さらに、日本人と外国人の子どもたちが共に育つ環境の下、日頃から多様な価値観や文化的背景に触れる機会を活かし、多文化共生の考え方に基づく教育に取り組みます。」ということで追加をさせていただきます。

修正箇所⑬です。これは表現ですけれども、危機管理意識を「育む」というふうに表現しておりましたが、ここを「育てます」に変更しました。

⑭の子供たちの地域愛を育むことを大切にしてほしいという意見です。こちらは、計画で24ページのところに修正をさせていただきます。子供たちの地域愛を育むことを大切にしてほしいとの意見は、今回のパブリックコメントだけではなく、地域説明会でも意見をいただいております。これまで、子供たちに地域愛を育むため、地域と学校が一緒に子供を育てることができるよう、コミュニティ・スクールを全校に配置しまして、再編に向けて活動をしている方を中心に、どのようにつなげていくのか、市民との話し合い、協働はとても大切だと思っておりますので、引き続き行っていきたいと思っております。

これを分かりやすい具体的な表現として、この24ページのところに「新しい学校でも子どもたちに地域愛を育むことができるようなコミュニティ・スクールにするとともに、」ということで、目的をはっきり書かせていただいております。

⑮、⑯の修正箇所について、併せて説明をさせていただきます。計画は25ページのほうをご覧ください。

教職員から意見、そしてパブリックコメントでも意見がありましたけれども、スクールロイヤーの必要性や教職員のモチベーションについて、ご意見がありました。

25ページのところに、専門家のアドバイスについてということと、やりがいを持てる環境づくりについてを明記させていただいております。

17の修正箇所です。再編前の他校との交流、研修、すり合わせを計画的に実施してほしいとの要望がありました。

こちらは、計画では、今見ていただいている25ページのところですけれども、これまでも教職員との意見交換会を行って進めてまいりましたけれども、今後は、特にソフト面において教員の知恵や思いを共有して進めてまいりたいと思います。これがしっかり伝わるように25ページのところに追加をさせていただいております。

では、修正一覧の裏のページ、18番をご覧ください。市外も含めた教職員組織のあり方の検討です。こちらは、計画案の26ページのところに（４）の教職員組織のあり方というところに追加をさせていただいております。

次の修正一覧の19番です。図書室の機能の充実です。こちらは、計画案は28ページになります。上から2行目の（３）のところでは。

こちらに学校図書館の「整備」とこれまでありましたところを「充実」に変更させていただいております。図書室の機能を充実させることは、大変大事なことで認識しておりますので、こちらを充実ということで変更させていただいております。

次の変更箇所20番です。こちらは、あらゆるプログラム整備、改修に耐えられる施設ということで、未来のことを考えると、このような施設にしたほうが良いとの意見がありました。

当初は基本方針3のところに「長期的に管理しやすい施設」ということが書いてあり、具体的な機能について載っていなかったため、項目を追加させていただき、計画案は30ページをご覧ください。30ページの下の方に、長期的に管理しやすい施設ということで項目を一つ設けさせていただきまして、具体的に機能を載せさせていただいております。

次の修正箇所21番です。将来の子供たちに、この造った施設の負担をさせるのは負の遺産との意見がありましたので、今の30ページの項目を追加した中で、長期的に管理しやすい施設の中で適正な管理ができる規模ということで追加をさせていただいております。

次の修正箇所22のところでは。これは、こちらの項目を入れたことで、これまであった項目が繰下げになっているものであります。

次の23の修正箇所です。こちらは少し戻りますけれども、計画案の8ページをご覧ください。これまで脱炭素社会の実現を目指した学校施設整備の中に、こちらが描かれてありましたけれども、8ページのリード文のところに、ちょっと赤くなっていないんですけれども、上から3行目の「持続可能な」というところで全体のリード文の中に入れていただいております。

そして、修正箇所の24番です。こちらは、計画案は33ページをご覧ください。教育や社会の多様な変化に柔軟に対処していけるような体制を取るようとの意見をいただいたので、33ページのリード文に文言を追加させていただいております。

次の修正箇所25番です。こちらと同じ33ページのところの赤字のところでは。子供たちの意見

を聞き入れるというご意見をいただきました。これまでも中学生、高校生の意見を聴取してきておりまして、来年度は対象を小学生からとして、小・中・高校生を対象とした授業やワークショップを予定しております。ですので、33ページの意見を聞く対象に「子どもたち」という文言を追加させていただいております。

それでは、34ページの一番上の段をご覧ください。修正箇所の26番に校則の見直しということで、校則の在り方について検討してほしいとの意見がありました。開校準備で検討する例示として、「校則」の文言を追加させていただいております。

また、27番にあります全体的な表現ですけれども、「生かす」の文字を活用の「活」にさせていただきまして、「活かす」と表現を変えております。

28番の、同じような項目ばかりで分かりにくいとのことですので、これは一番最初の目次の後ろに体系図をつけさせていただきました。これで、全体的なこの計画案の体系をこちらに表現させていただいております。

また、各章ごとにSDGsのロゴの追加を載せさせていただいております。

そして、部長からも話がありましたが、この計画案をつくる際に基となった、あり方検討の方針と、これまで行った市民意見交換の経過、経緯を資料編として載せさせていただいております。

以上、急ぎでご説明させていただきました。よろしく申し上げます。

○議長（植田博巳君）

今、説明が終わりました。この件について、今回が最終案ということでパブリックコメントの結果、今まで118回の4,000人以上というような意見交換、そしてパブコメが、今報告があった157件、それから保護者のオンラインが20名、教職員300名という中で、意見を集約した形で説明がありました。この件について、お聞きしたいことや質問のある方は、どうぞ挙手にて述べていただきたいと思います。

原口議員。

○10番（原口康之君）

少し質問させてください。

御前崎と牧之原の学校組合の中で、一応、2月定例会で説明会をやったと思うんですけど、その説明会に対してのご意見とか反応とかといった部分に関してまで、今回の説明会というのが、求めるような形だったのかどうかという部分の説明をお願いします。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

あの際につきましては、この最終案になる前の案で説明をさせていただきました。

そのときに、ご説明をさせていただきましたが、特別、議員さんのほうからはご意見はなかったということで、そこについては、そのままになっております。

今回、これでもし最終の計画ができれば、また、どこかで組合議会の皆様にも提供して、必要

であればご説明をいたしたいというふうには思います。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ほかには、ご意見ありませんか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

1点目、今、説明してもらった資料の30ページで修正の21番になりますけど、子供たちに負担させるのは負の遺産という、そういう質問に対して、長期的に管理しやすい施設ということで、適正な管理ができる規模、この適正な管理ができる規模って、分かるようでちょっと分からない説明なんですけれども、例えば、そのときの生徒数とか、適正というのが仮に管理費とかということていくと、そのときの市の財政力とかということのものにもよると思うんです。

これってどういう意味合いか、この規模、どういう規模かということなんですけれども。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

ご意見としては、新しい学校をつくるときの想定する人数は、それに対しての適正な規模のものをここでするという意味であって、ご意見としては、過大な立派な物すごいものを造って、それが将来負担になると非常に将来の、これからの子供たちも含めて将来負担になるから、適正な規模の、過大なものを造らないほうがいいんじゃないかというご意見でございましたので、ここでは適正な管理ができる規模ということで表現させていただいたと、そういうことでございます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

そのときというか、あと8年後ですよ、実際に目指すのは。8年後の生徒の数というのはある程度想定はできると思うんですけれども、今、牧之原市が目指しているのは、やはり人口を増やしていく、そういった施策を一所懸命やっているということで、将来的には、始めるときにはそういう規模であっても、当然、将来に向けて拡大、人口が、お子さんたちが増えたときにも拡大できるような、そういうイメージの施設規模というか、その敷地規模というか、その辺は当然、考えながらということですよ、含まれているのは。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

その後、この文言の中で、後ろの、変化に対応できる柔軟な施設という表現をさせてもらっています。これは、増えた場合に教室を拡張することが可能なレイアウトみたいな、そういったものであるとか、可能性としては、例えば、特別支援教室が増えていくとか、そういうことも考え

られますので、そういった意味合いと、逆のことで、今の想定ですと、さらに児童数が減る可能性もございます。そういったときに、例えば、今の学校施設の空きスペースを違うものに、例えば、活用できるような、そういった柔軟な対応ができるような施設を考えていきたいということで、両面の意味で、ここはそういう意味で書いてあるところでございます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

というのは、なぜ質問したかと言いますと、ある意味、今回の学校再編していく中での不安というか疑問の一つに、牧之原市は、やはり今後、人口減少をなるべく進まないようにいろんな施策を打っている、その施策とここの学校再編によって学校を、今、部長が説明をしたようなことに対応していくというのは、ある意味、子供が減っていくというのを前提のこの学校再編だと思うんです。

基本的に増えていくことが前提なら、今のままで当然いいと思うし、施設の整備もしていけばいいんですけれども、減少ということと、減少しないようにという、このある意味相反するものをこれから行政として取り組んでいかなければいけないものですから、ある程度、その辺に対応が可能な考え方でいかないと、本当に願っていたように、この牧之原市が、ある意味、劇的に人口増につながるようなことに、うれしいことになったときに対応できるような施設に、ぜひ目指すというか、考えておくべきだと思うんです。そういったことで質問したんですけれども。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

ありがとうございます。

当然ですけれども、市として、まちづくりとして、人口を増やすなり、にぎわいをつくるというようなことは当然やっていく話でございますし、この学校再編についても、まちづくりの一環という位置づけもしておりますので、これが今の想定している児童生徒数より増えてくる。増えた場合に、新しい学校が対応できるようなものは、当然、想定をしていかなければなりませんので、その辺を含めて考えていきたいなと思います。

ただ、ここで、あまりにも過大なというか過剰なものを造って、それが単なる将来負担になるのでは、これは市民の方のご心配の一つでございましたので、そここのところのバランスについては、しっかり考えていきたいなというふうには思います。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

これはある意味、市長への質問になるかと思うんですけれども、新しい学校というのは、やはり先進的では素晴らしいモデルになるような学校にしてもらいたいし、そうなっていくと思うんで

すけれども、そのときに、市長がよく言う、ある意味、僕がさっき言った、人口を減らさないための学校再編でもあるということからいくと、もし牧之原市にこういったすばらしい学校があるから牧之原市に来たいという人を呼び込む一つの戦略だとすると、その受皿が、住宅地にしても魅力のある住むところの確保というのはしていかなければならないと思うんです。

それには、ある意味、跡地の問題というのは、魅力的な牧之原市に住宅地の提供という部分も考えていかなければいけないと思うんですけれども、市長、その辺については、今後どのように考えて手を打っていくかということ。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

太田議員のご意見のとおり、このまま放っておいたらどんどん減っていくという状況ですので、減少の角度を抑えつつ、改善できるならば、横ばいから、望むところは増加というようなことになるわけですが、ですので、そういった意味でも新しい学校というのは、そういった魅力がある、教育の中身も含めて、施設も含めて、ということですから、そういった先ほど来からの部長の答弁のとおり、柔軟性を持った建物も当然必要ですし、それから敷地にしても余裕のある敷地というのは、分相応のところのあれはあるとは思いますが、そういったことの余地も含めて必要だなと思えますし、それから跡地に関しても、あらゆる可能性があると思うんですね。宅地にするということもあるだろうし、企業誘致につなげるところもあるだろうし、そういったにぎわい施設にするところもあるだろうし、様々な利活用の方法があると思うんですね。ですので、それは地域地域、いろいろな特色を生かしながら、あるいは民間の資本も入れて、十分に検討して、よりよいものにして、そして人口増あるいは、にぎわいづくりも含めて、税収増も含めて考えなくてはいけないというふうに思っています。

○議長（植田博巳君）

種茂議員。

○8番（種茂和男君）

いろいろご意見が出ていますけれども、当初、少子高齢化のほうもありますけど、今の小中学校が耐久年数が35年以上たって、そういった維持管理の面から見ていくと、中高一貫校なり、まとめたものを一つ造りたいというのが策定委員会のほうに下りてきて動いた経緯を持っておりますので、もう一度改めて、本当ににぎわいとか、それで一番出たのが、先ほど言われているようにキャリアとか、いろんな言葉のIC近代化とか、融通性のある学校というようなイメージで捉えていますけれど、とにかく、今の小中学校補修とかいろんな関係で直したりなんかする費用よりも、そういったものが牧之原市の力としては経済的にスムーズにいくじゃないかということで、私どもも、そういった関係で協力して動いた時期もありますので、そこら辺が、我々のほうは議会のほうでもある程度、認識した上で、下りてきて動いたような感じで、自身は動いているものですから、非常にそういった意味では先進的にもう少し、子供さんが楽しく元気に行けたり、本

当に地域のことを吸収できたり、IT教育だとか、絆づくりだとか、キャリア教育ですか、そういったものを重視していい学校にしてもらえたらなどは、つくづく思っておりますので、そこら辺をよろしくお願ひしたいと思うんですけれども。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

ありがとうございます。

教育委員会としては、まず、受けさせたい教育の実現ということは、第1目標としてはもちろんしています。議員がおっしゃるとおり、キャリア教育であるとか、ICT教育とか、そういったものは当然充実をして、牧之原市の子供が立派に育っていく、そういったことを当然考えております。

ただ、一方で今の学校の老朽化、これの維持管理費に係る積み上げをしていきますと、結果的には新しい、いい学校を造っていったほうが、20年、30年、50年たったときに、それは今の学校は維持できない、そういった考え方も当然ありますので、ここはそれだけではないよということは、市民の方にもご理解をいただくような形で説明もしていますし、今後もそういった形で教育という部分はやはりそこはまず目的だよと、そういうようなことでしていきたいなと思っています。

それと、先ほど来、言っているとおり、まちづくりの一環であるということで、ここで受けさせたい、あるいは、ここの学校で教えたいとかというような、こういった魅力的な学校、そういったものもしっかり進めていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

種茂議員。

○8番（種茂和男君）

よろしくお願ひします。

○議長（植田博巳君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

私のほうから、これまでの進め方とともに、今後の進め方について、確認とともに、ちょっと意見を述べさせてもらいたいんですけれども、今回、パブリックコメントに関して言うと、65件ということで、思っていた以上にちょっと件数というか、出してくれた人が少なかったのかなというところがあって、1人の方が多くの意見を出しているような状況かなと思ったんですね。

それとともに、これまでの市民との意見交換会、市のほうもかなり年月かけて回数も企画していただきましたけれども、ただ、コロナ禍にあって、時々で中止になったりとかということがありました。そういった中で、市民の方からしてみると、やっているんだけれども、やっている回

数が少ないとか、周知がされていないとか、していても知らなかったというのも結構多かったという意見を聞いています。

そういった中で、市のほうも苦肉の策でいろいろやっていただいているんですけども、この中でオンライン説明会というのを、今回4回やっていただきましたけれども、参加している人数が非常に少ないと思うんですね。

どのような周知のし方をやったかというのも、ちょっと確認させていただきたいんですけども、どうでしょうか。

○議長（植田博巳君）

教育総務課長。

○教育総務課長（水野敬子君）

オンラインにつきましては、未就学児の保護者を対象にオンライン説明会をやりたかったので、まきはぐや、あとは支援センター、児童館、それらを通して、あとは幼稚園、保育園などを通してチラシをまいたり、LINEで送ったりとかさせていただいて、申込みをさせていただきました。

申込み人数は、もう少しあったんですけども、当日、具合が悪いだとかということで、結局は参加人数が20人というところになってしまったんですけども、参加した方からは、先ほど部長からありましたとおり、産後とかで説明会があっても外に出られなかったという方が、こういった家でオンラインを通じて自分の意見も話をするができるって、この機会はとてもよかったというふうに喜んでいただきました。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

非常にいい取組だと思うんですね。ですので、できるだけ多くの方に参加してもらいたいというふうに思っています。

ですので、もっと周知のし方をもう少し広げてもらってとか、できるだけ多くの方に参加してもらいたいというのがあって、あとパブリックコメントの中でも、やはり否定的な意見の方というのは結構多かったのかなと思うものですから、逆に2校案だとか、この小中一貫校に賛同しているという方に関してみると、例えば説明会とか、意見交換会とかにコロナ禍の中で、感染のリスクがある中でわざわざ行くということがなかなか、やはりちゅうちょするとか、別にそこまで行かなくていいやと思う方がいるんですね。私の周りにもそういった方がいらっしゃるものですから、あえて言っているんですけども、ですので、できるだけオンラインという形で手軽にできる方法、これをどんどん増やすことによって多くの方の意見というのがもらえると思うんですよ。

また、コロナというのは、これは収束するのがいつになるのか分かりませんので、そんなとき

に、また説明会を企画しても参加人数が少なくて中止とかとなっちゃうともったいないものですから、ですので、それは対面での会場の中でもやりながらオンラインというのも同時でやるとか、何かこれからちょっと工夫してもらってやってもらったほうが、せっかく市のほうで企画していてもそれで1回中止になっちゃうと、その機会に予定した人って行けなくなっちゃうともったいないと思いますので、ぜひ、そういったところを工夫していただいて、市のほうも一生懸命やっているんだよということを、ぜひ市民の方に分かっていただきたいというところがあります。

あと年齢層も、結局どちらかというところの役員さんとか、そういった形の方で義務的に来ている方が多いと思うんですけども、それも確かにあるんですけども、それよりも、これから若い人たちですよ。子育て世代とともに子供たちですよ。小・中・高とかって子供たち。そういった子供たちの意見というのもどんどん取り入れてもらいたいものですから、ぜひ、そういった工夫をしていただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

教育総務課長。

○教育総務課長（水野敬子君）

ありがとうございます。

若い方たちの意見については、濱崎議員からもご提案がありまして、オンラインに、早速、取り組ませていただきました。

やはりコロナ禍ということもありましたので、なかなか思うようにやれなかったところもあるんですが、広報とか、そういった部分についてもSNSの部分だけではなくて、紙媒体でもいろんな年齢層の人が、そういったアナログの部分でも見られるように、これまでも広報で年間を通してお知らせをさせていただきました。

計画が無事、策定がもしできた場合には、概要版を全戸配布で皆さんに周知させていただきたいと考えておりますので、より多くの皆さんにこの計画のことを知っていただくような努力をこれからも続けていきたいと思っております。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

先ほど、太田議員からのご質問が結構、私の中でもちょっといいことだなと思った中で、人口増に対応できる施設、うちの施設の老朽化と人口減のところの考え方が今までかなと思っている中で、いろんな意味で小中一貫校で、成人年齢も下がってきている中で、逆に公立でできるかなというチャレンジの中で、地域との共生で、例えば遠くから牧之原へ来て住める環境、地域の方に寮ではないんですけど、サッカーで留学したり、そういった関係のところの、何かそういったところの的可能性なところを入れておくと、魅力ある、これから8年後につくったときに、そういう方も来れる、地域との共生を含めた、例えば寮じゃないんですけども、お年寄りのところ

へそういう子供たちが来て、そこから学校へ通ってというようなところも、逆にこれからの箱物と教育的な環境の中で集まって来れる環境づくりという意味では、地域との共生的なところのご意見も入ってくると今度はいいんじゃないかなというのを、太田議員のところ、私も減っていくほうで、増やすほうという感覚が目からうろこだったものですから、そこら辺のところを盛り込んでいただくと、何か地域の盛り上がりも上がってくるんじゃないかなと、私ちょっと思ったものですから、そこら辺について、よろしくをお願いします。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

例えば、寮とか、そういうお話がありましたけれども、基本的には義務教育でございますので、牧之原市に住所がある方が通われるということになります。

ただ、やはりこういった新しい学校をつくり、そして魅力ある特色のある教育を充実させ、それが成果が、効果が出て、それをしっかり外にPRといいますか、牧之原市以外の方に、牧之原市はそんなことをやっているんだ、そういったところに住みたいなと、結婚したらそういうところに住んで子育てもしたいなというような、本当に魅力的な学校をつくっていくことによって、人口増のための学校再編というわけではないんですが、成果として、効果として本当にそういったところが出てくれば、それは、これを市のまちづくりの一環としてやる学校再編としての成果として、一つの指標としてもなり得るのかなというふうに思いますので、そういったふうになるようないいもの、そういったいいものになるように取り組んでいきたいなというふうに考えております。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

加藤議員。

○5番（加藤 彰君）

冒頭、部長のほうから、パブコメをするに当たって、それまでの経過について、少し触れていただきました。その中で少し確認をさせてください。

この頂いた資料の中の37ページです。37ページに学校再編計画策定までの流れということで整理していただいております。この中で一番聞きたいとか確認したいのは、令和2年のところの学校再編計画という柱で、一番右の市民参加、市があつて審議会があつて市民参加になっている右側の市民参加のところなんですけれども、10月、意見交換会9回、何人って書いてあつて、ちょっと下がっていただくと、2校の小中一貫校案への意見を聞くなどが書いてございます。

そこで確認なんですけれども、部長の説明では、この2校の説明というよりも、複数案を示して意見を市民の皆さんから伺ったというふうに説明していただいたということによろしかったでしょうか。それをお願いします。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

このときについては、この前に策定委員会をやっております。そのときに2校案に賛成というように、策定委員会ではそういったことでもございましたけれども、でも市民はどのように考えているのか、やはりそこは確認をしたいというようなことでもございましたので、意見交換会の中では策定委員会としては2校案がいいのではないかという今は話をしているんだけど、そこのところは、1回、それだけではなくて、そのほかの意見も踏まえて皆さんはどう考えますかというような意見交換会をやらせていただきました。

そういった中で、ここに少し書いてありますけれども、いろんな意見は出ましたけれども、2校案または3校案がいいんじゃないかなというようなところが8割以上の賛同があったということで、そのとき、策定委員会の方は、市民の方もそうして考えているのであれば、この方向で少し考えてみようということで次の検討に入ったという、そういう経過になります。

○議長（植田博巳君）

加藤議員。

○5番（加藤 彰君）

そうしますと、策定委員会のほうでは、もう少し2校案にとらわれなくて議論したということでもいいですね。

その上で、さらにお聞きしますけれども、平成30年のところで答申を受けたと。方針を決めたのが平成31年3月。その方針に沿って、審議会と書いてあるところの策定委員会で、学ぶと書いてありますけれども、在り方とか、国の施策とか、ファシリティーマネジメントとかを学ぶとともに、検討としては目指す学校像、その目指す学校像というのは、この上のほうで見ると、実現に向けての方針ということで捉えていいでしょうかね。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

あり方の方針の中でもありますけれども、改めてここで、学ぶというところで、大学の先生の講演を聞いたり、あるいは先進地の学校を幾つか策定委員会の方に見ていただいて、いいところ、それなりの現場の方の声を聞いた中では、こういう在り方の方針は出ているんだけど、今度は再編計画として、どういった学校像を、そこはまず皆さんの共通の認識を持った上で次の検討に入ろうということで、目指す学校像をこの中で議論をしたと、そういうようなことでもございます。

○議長（植田博巳君）

加藤議員。

○5番（加藤 彰君）

最後ですけれども、令和2年に答申をいただいて、その答申としては、その目指す学校像とか、

規模とか、校数とか、機能等とかというものの素案ができたものの答申をいただいて、それで令和3年度に入ったということですが、この後のことになりますけれども、この後の計画としては、周知をしていくよというのが別のページに載っていますけれども、私の見方ですけれども、令和3年の素案への意見とか計画案ができて修正案という、この流れの中で、計画の中身については、かなり詰められたということで解釈していて、それを、そうはいつでも、パブコメの内容を見させていただくと、まだまだ理解が足りていないというのがあるのかなという気はいたします。

ですが、あくまでも計画の中身を詰めるという分での意見交換なりを進めてきたという場面が令和3年度にあったと。その中身について、さらに皆さんに理解していただくとか、さらにもっとよくする項目があればよくしていくしという、そういうことでの令和4年度については周知をしていくんだというような理解でよろしいでしょうか。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

素案の答申をいただいて、令和3年度は、こういった意見交換会等をやってきました。

これは、あくまでも策定委員会の素案でございますので、市として、市教育委員会として、これをしっかりとした施策として、計画として、つくり上げるに当たって、市民参加の手法として、こういった意見交換会であるとか説明会、そういったアンケートであるとか、そういうのをやらせていただきました。

周知という面もございますけれども、あくまでも市の施策は市だけが、行政だけが考えるのではなくて、市民の意見も取り入れながら、そして、いいところ、あるいはこういった課題があるというところについては直しながら、あくまでも市民参加の一つとして意見交換会をやらせていただきましたので、そういったことの中で最終的な今回の最終案をつくり、それで、最後の仕上げということではないんですが、最後のパブリックコメントということで、こちらについてもあくまでも市民参加としてやらせていただいたものでございます。

もちろんその間に、こういったものをこういった経過で、こういった計画を、今つくっていますよという周知を、もちろん同時にやらせていただいて、こういったことをやれば、多少なりにいろんな形で議論にもなりますので、周知という面もございますけれども、あくまでも市民参加の機会としてやらせていただいた、そういうように捉えていただければと思います。

○議長（植田博巳君）

あと、まだご意見がある方はいらっしゃいますか。

ちょっとここで市長は予定があるということですから、ちょっと中座する関係上、一時休憩という形でお願いしたいと思うんですけど、よろしくをお願いします。

〔午後 3時20分 休憩〕

〔午後 3時31分 休憩〕

○議長（植田博巳君）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

ご意見がある方。

石山議員。

○1番（石山和生君）

二つお聞きいたします。

学校再編の、完全に一般の方が参加できるような意見を伝えられるような機会というのは、R2年11月のインターネット意見募集と今回あったパブリックコメントという理解でよろしいですかということが一点と、もう一点は計画策定、この37ページの図がとても素晴らしいなと思っています。次回の基礎構想とかをつくっていくときにも、こういったようなスケジュールみたいなものを事前に把握することが可能かということをお聞きしたいです。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

一般の方が参加できる機会ということですが、パブリックコメントとか、そういったことだけではなくて、学校の説明会であるとか意見交換会、このときは必ず公募の参加も募集しておりましたので、そのときだけではなくて、毎回の意見交換会の際には参加する機会があったかと思えます。

それから、今後のスケジュールにつきましては、この中に学校の教員の方にもロードマップみたいなものが必要だというご意見もありましたし、これから、もしこれが計画として今年度中にできれば、次のスケジュール的なものは出していきたいなというふうには思っております。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

ありがとうございます。二点目のほうは了解いたしました。

一点目のほうは、では、一般の方が参加する機会はたくさんあったといったことだと思って理解しております。

ただ、最終的に、公開質問状であったり、要するに反対の方、多様な意見はそもそもあっていいと思っているんですけども、ただ、タイミングが本当に最後の最後というふうになってしまったことが決断せざるを得ない時期にきていて、それがもうちょっと早くきていれば、もうちょっといい感じになっていたんじゃないかなというのが結構思うところなんですけど、そこら辺の今後、多様な意見を先に出してもらうための工夫みたいなところって、何かお考えとかはありますか。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

基本的には、全て公開でやっております。全ての会議は公開でやっておりますし、考えられる周知というのはやっているつもりでございましたけれども、結果として、そういったご意見もございません。

今回、まずは知らないというようなご意見もありましたので、年が変わってから全戸配布のリーフレットを、まずわけさせていただいて、少なくとも、こういった計画が今、進んでいますと。その中で、一つの周知としてはリーフレット、手元に残るようなものをわけさせてもらいたいなと思っています。

ご意見というのは、別に、このパブリックコメントの時期だけではなくて、いつでもご意見をいただければありがたいなと思いますし、ご案内としては、例えば地域とか、PTAであるとか、保護者会とか、説明が必要であればいつでも行きますよというような、そういったご案内は常々していたところなんですけれども、なかなかそういった依頼がなかったというところが事実でございますので、もう少し努力をしていきたいなというふうに考えております。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

そうですね。なので、一般の方から意見をいただく場合は、今おっしゃっている、私たち含め、恐らく、ちゃんと周知させるというのが重要なのかなと思っています。なので、今後のスケジュールをいただいて、私たちのほうも周知に努めるようにしようと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

ほかにはございませんか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

すみません、2回目です。

○議長（植田博巳君）

どうぞ、何度でも。

○12番（太田佳晴君）

9ページですけれども、目指す教育と施設の考え方という、ここから始まって、目指す学校像とかあるんですけれども、特にこの最初の新しい学校は、キャリア教育を軸とした小中一貫教育を充実させることができる、この「充実させることができる施設一体型の」というのが、少し表現とすると自信のないというか、させるということじゃなくて、できると言う、やはりできるかもしれないしできないかもしれないというような、何となくそんな含みを感じるんです。

それで、当然、目指すというものですから、できるという表現だと思うんですけれど、キャリア教育を軸とした小中一貫教育ということが、しっかり打ち出されている以上、これを目指すと

いう、この部分は、もう少しはっきりした表現のほうがいいかなと思ったんですけどもね。

その中で一つ、それは表現のことなんですけれども、今まで何年にもわたり、何回も何回も市民の意見を聞いてきたということなんですけど、地域医療の関係なんですけれども、特に、最近、榛原病院が安定して経営されているんですけども、かつてこの地域では、地域医療の崩壊ということで、現在も続いている開業医の不足、また医師不足ということで言われている中で、やはり言われていたのが、医師というはある程度、教育水準の高いところというようなことも当時からお話があります。そういったことで、せっかくこれだけの計画をする場合に、病院の先生方にとってどんな学校がいいかなというような、そういった、そちらからの意見というのは今まで聞いたことはあるんでしょうか。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

まず、病院の先生方に直接、その分野の方に直接お聞きしたということはありません。

ただ、やはり先生方のこれまでの医師確保のお話の中で、なかなか自分の子供はそれなりの教育水準の高いところに通わせたいのというようなことは、これまで言われているというのは承知しています。

小中の義務教育のレベルの中で、なかなかそういった先進的なのというか、例えば、進学を前提としたみたいなの、そう言い切った教育はなかなか義務教育でありますので、できないというところはありますけれども、そうではなくて特色ある教育という中で、しっかりした個々に応じた教育もしていますよというようなことが、やはりアピールできれば、それはそれで、もしかしたら選択の一つになるのかなとは思いますが。

これから先生方に聞く機会が少しあるのかどうかはちょっと分かりませんが、そういったところも、もしかして意識しなければいけないのかなとは思いますが。

それから、今、最初のご指摘のところの「キャリア教育を軸とした小中一貫教育を充実させることができる」、若干、確かに言われてみますと回りくどいところがありますので、少し検討させていただきます。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

教育水準の高いところへというのは、当然、義務教育ですから、そういったことを表でうたうことは、それはできないと思うし、結果として、あの学校ってすごいなということで、評価というのは当然ついてくるとは思うんですけども、やはり教育に対する姿勢とか考え方というのは、これは最初からしっかり持つ、これは当然だと思うんです。

そういった中で、さっきちょっとお話ししたように、先生方って、それなりに、いろいろ考え

方、そういうこともあるのかということも、当然持っていると思うんです。そういったところで、普通の市民だけじゃなくて、いろんな分野の人たちに、これからも意見を聞いて、いろんな気づきがあると思うものですから、せつかくこれだけのことをやろうとしている中で非常にもったいないと思いますので、発想をいろいろ持って進めていっていただきたいなど、そんなふうに思います。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

ありがとうございます。

学力だけではなくて、この牧之原市ならではのところもございますので、それは一つの魅力といたしますか、そういったところはしっかり前面に出してアピールといたしますか、しっかりした、こういう教育をしているところだなというような評価をしていただけるようなところを目指していきたいなというふうに考えております。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

ほかに。

大石議員。

○14番（大石和央君）

一点だけですけれども、この計画について、教職員にもアンケートを取られたということです。

市内の小中学校ということで、300人対象でやられているんですけれども、その中での300人で回答が何人くらいあったのかということと、それから、アンケートをまとめられた資料があるかどうかと思うんですけれども、ありましたら、それをぜひ頂きたいんですけれども。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

まず、件数ですけれども、287件のご意見をいただいています。

実は、このアンケートを取るときには、外に出さないということで取ったということなので、少し校長会等で協議させてもらって、出せるものであれば出していきたいなというふうに思います。

○14番（大石和央君）

まとめたものはないの。

○教育文化部長（内山卓也君）

あります。

○14番（大石和央君）

それは出せないの。

○議長（植田博巳君）

今のやつは、あれですかね。質問は、教職員に出したアンケートということですか。

総括主任。

○総括主任（石川奈美君）

すみません、今までも学校とは意見交換をしてきたんですが、今回、アンケートを取るときに、外には出さないで、学校と教育委員会だけで共有するので率直な意見を書いてほしいと、上辺だけの本当に、誰かに見られるかもしれないと、いいことだけを書くんじゃないで、先生たちが本当にこういうことが困っているよとか、こういう不安があるよということも私たちは知りたかったので、それを全部書いてもらいたいと、だから、その代わり外には出さないという条件で書いていただいたので、学校はそれこそ小規模の学校も多くて、学校とか年代とかで全て個人が特定されてしまうという危険もあります。

そういう条件でいただいているので、ちょっと公表をすぐにここで出すということには即答はできないというご理解をいただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

まとめられていないということですか。

別に個人が特定されるものでは決してないと思うんですね、まとめるということが。

まとめられていないということですね。

○議長（植田博巳君）

総括主任。

○総括主任（石川奈美君）

まとめてあります。

先生方がその状況をと、どんなことを考えているかということ、先生同士が共有できるように、その結果は全て学校のほうにお渡ししてあります。

ただ、それは、先生たちだけで共有するよということ、外へは出さないものとして共有がされています。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

私たち、やはり、この計画に対して議論をしながら、そして最終的には、計画を決定するのは市教委でありますけれども、しかしながら、私たちは予算面でこの計画に対して判断をしなければならぬですね。

そうした中で、やはり重たい立場にいるわけなんですね。そういったことで、そのような資料が我々にも提供されないということであるならば、判断のしようがないですね。ここに書かれて

いる資料1のところ、これだけ見ただけでは分からないんですよ。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

まとめたものを、今、お手元にありますけれども、学校名と答えられた年代とあります。そこを除いた形で意見はそのまま入っているんですけども、そのものの形で出すようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（植田博巳君）

ほかにはありませんか。

中野議員。

○13番（中野康子君）

今ね、学校の先生との約束の中でやったものを、やっぱり、それはそれで守らなきゃいけないんじゃないでしょうかね。そうしたら、信用がなくなるんじゃないですか、今後の。それってすごく大事なことで、いいのかなって、逆に思いましたけれども。

○議長（植田博巳君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

私も今の中野議員と同感です。約束したものを、こういった勝手に出しちゃうと、信頼関係が本当に崩れてくるので、それは出すべきではないと思います。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

ただ、アンケートで意見の傾向って出しているじゃないですか。

意見の傾向は出ているのであって、それは出していますよねということは、傾向をもうちょっと知りたいという趣旨の発言だったかと思うんですけど、資料1の教職員アンケートのところに意見の傾向としてアンケートの結果を大体はお示ししていただいていると思うんですけども、それを恐らく、もうちょっと詳しく知りたいということなんじゃないかと思ったんですけど、という観点からいくと、別にもうちょっと提供してもいいんじゃないかと私は思いました。

なので、何か約束を破っているような状態じゃない、この意見の傾向が出ている時点で、これは約束を破っていないんだとすると、もうちょっとまとめたものを出せばいいと思いますし、そもそも、そういうのを出しちゃいけないんだとすると、この時点で約束を破っていることになるんじゃないかなと思います。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

ありがとうございます。

実は、実はということはないんですけども、意見の中で分類をさせていただいて、細分類もしていて、そういうまとめ方を少ししているところがあります。

細かい意見は、そのものはあるんですけども、もう少し整理をして、傾向であるとか、そういったものが分かるような形で出させてもらっても、そういう形でもよろしいでしょうか。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

設問とそういった分類でまとめられたものということの提供ということが精いっぱいということであるならば、精いっぱいのところで提供をお願いしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

今回、設問を設けたわけではなくて、自由記載になっていますので、まとめ方が非常にグラフになるような形のものではございませんので、意見が出たものを項目ごとに分類して、どういった意見が何件ぐらいあったとか、そういうような感じのものは整理をして出させてもらうという形でよろしいでしょうか。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

いずれにしても、設問というか、どうしてこのアンケートを取るのかという、その趣旨がなければ取れないと思うんですね。だからそれに対してどういうふうに考えているかというところのアンケートだというように思うんですが、違いますかね。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

今回、設問というよりも、この学校再編計画の案を校長会などで説明させていただいて、校長が学校へ持ち帰ってそれを説明していただきました。それを基に、この計画案をどう思うかというようなことで、自由記載でいただいているということでございますので、様々なことが書かれています。

なので、そこは、どういった意見があったかというのは、全部整理をして、少し項目を分けて、どのぐらいの意見があったのか、あるいは主な意見としてこういうものがあったのかというのは、もう一度整理をさせて、なるべく早いうちに出させてもらいたいと思います。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

以前、学校教育課長にもちょっと質問したことがあったんですけども、やはり今回、この学校再編を進める中で、一番大事なのは現場で教育に携わってくださる先生方だと思うんです。その先生方の本音の部分というのは、ちゃんと我々も把握して、それで、しっかり改善してもらうように、それは訴えなきゃいけないし、先生方の意見というの、こうしてもらいたいよというの、恐らくあると思うんです。

だから、それを今、部長、報告ということですけども、あくまでも先生方と教育委員会の信頼関係を損なわれないような状態で情報提供してもらいたいなとは思っています。

ですから、出していただくのは大変ありがたいですけども、やはり確認を取る中で、アンケートを取るときに、そういうお約束なら、情報提供するときも、そこはしっかりと確認を取ってもらって。これ、議会も、いや議会がということになってしまうと、それもまた我々も心外ですので、そこはまた、ぜひしっかりお願いしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

教育長。

○教育長（橋本 勝君）

教職員の学校再編に関する生の声を聞きたいというのが本当の趣旨であって、校長会を通して、校長が説明を受けて、各学校に帰って自校の教職員にお話をして、それについて疑問の点もあるだろうし、こうしたほうがいいじゃないかという提案があるかもしれない、何でもいいですから書いてくださいということでこちらにいただいたので、ですので、何か意図をもって、これを操作して、こういう結果を出したいというふうに持っていったわけでは全くない、ここら辺をちょっと誤解されてしまうと、本当にいけないかな。

○13番（中野康子君）

そんなこと思っていないですよ。

○教育長（橋本 勝君）

そういうことじゃなくて。それは分かります。それは一つはあって。

それは、なぜこんなことを言ったかという、この前、私たちのところに、教育委員会が何かこのところを操作しているんじゃないかという話を私に直接言われた方がいた関係で、そんなことはありませんよ、それぞれの人たちがいろんな考えを持っているのはあってという話の中で、こことやはり結びついているのであれば、ちゃんとした形で、もう一回、校長会を通して、こういったことで信頼関係が崩れないような中で、そういった要請もあった中では、お答えして、こういう声が実際届いていますと。

その先生方も、それぞれの立場、管理職、学級担任、級外、様々な立場の中で不安を抱えていたり、どうなるんだろうとか、特に正規じゃない人たちは雇用の問題なんかに広がってくるだろうし、ここにいろんなことが入ってきました。

それは、できるだけこれを取り入れて、この中に反映できるような形、それは具体の中で示し

ていくことが結構多くて、計画案の中には、そのまま埋め込めないんですけれども、ここから先、本当に学校づくりをしていく中では、それを本当に反映していかなければならないかなという、それは本当に思っています。

そういうことですので、ちょっとお時間をいただいて、今いただいたことについては整理をさせていただきます。

○議長（植田博巳君）

今の件については、学校との信頼関係の前提条件でアンケートをお願いしたということも十分に配慮した中で、出せるものをまとめた形で、今お話があったような形で提供してもらいたいと思いますし、それって、いつ頃までに出るんでしょうかね。

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

頑張ります。なるべく早く出したいと思います。

○議長（植田博巳君）

ぜひ、なるべく早く頂きたいなというふうに思いますけど。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。

村田議員。

○15番（村田博英君）

全教師の皆さんからアンケートを取られたんですね。それで、その結果が出ていると。

皆さんのほかの教師以外の方のパブコメは匿名ですよ。今回も教師の方は匿名ということになると思うんですが、そういう中でのやり取りで教師の皆さんの本音を聞いて、それで、どうしようと思っていたんでしょうか。

○議長（植田博巳君）

教育文化部長。

○教育文化部長（内山卓也君）

一つは、今の学校の現職の先生方が、この計画に対して素直にどのように考えているか、あるいは、ここのある意味不安に思っている点であるとか疑問に思っている点、そういったところが非常に書かれておりますので、今後につきましては、そういったところは、しっかり説明もしていかないといけないし、フォローもしていきなさいいけない、あるいは課題として十分に取り上げなければいけない、そういうふうを感じる部分は非常にあります。

それから、やはり、これからこういった新しい学校をつくっていくに当たって、検討するに当たっても、つくった後についても、当然、現場の職員がメインになるというか、現場の先生方がしっかりやっていただくような形になりますので、そういったところに学校の先生方の考え方をある程度取り入れながらやっていかなければならないという、そういったものの参考となる、最初の、まずはご意見としていただいたということでございます。

それ以前に、一度、各学校を我々が回って、この計画案の前の前の計画案ぐらいのときに、1

回全ての説明会もやっています。そのときにもいろいろな意見が出ましたけれども、今回はもっとその先、また進みましたので、もう一度アンケートを取ったということです。少しずつ先生方の不安であるとか、あるいはここまで進んだんだからいいよねと、そういうふうな意見ももらっていますので、そういった変化も含めて知っておきたいと。

それから、最初の案をつくるに当たって、ここだけは学校の現場の意見として取り入れるべき点があるかどうかと、そういう確認もしたということでございます。

○議長（植田博巳君）

村田議員。

○15番（村田博英君）

時間も過ぎているので簡単に言いますけれども、こういうのって、校長先生と教頭先生、上司と部下という関係もあって、こういう考えを持っているのかとか、そういうことで非常にナーバスな内容にもなってしまうと思うので、くれぐれも組織の信頼関係が崩れないように、それから貴重なアンケートをもらうわけですから、部長がおっしゃったように、今後に生かすように、おまえが言ったんじゃないかと、そんなんじゃないかと、うまい関係というか、お互いの信頼関係を維持するように。校長、教頭は何を考えているかというのは非常に重要なんですよ。そこを併せていろいろ情報を取っておいたほうがいいと思います。

以上です。

○議長（植田博巳君）

活発な意見がありまして、内容的にはよかったかなというふうに思っています。

これで再編の委員会での説明は最終ということでありまして。これから、議会として、私として、何らかの形で方向性を出していかないといけないのかなと。要するに基本構想に関わるころがありますので、そんなことで、ちょっと思っておりますけれども。

以上で、協議事項については終了させていただきたいと思えます。

○13番（中野康子君）

議員間討議、やらなくていいの。

○議長（植田博巳君）

はい、わかりました。

これで執行部の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

今、説明がありまして、多数意見をいただきましたけれども、この件について、次年度の基本構想、基本計画に続いていくお話でありまして、大変重要なことだと思いますので、皆さんで、議員間で討議をしていただければと思います。よろしく願いいたします。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

今まで、あくまでも当局がいて、当局からの説明を受けて、我々議員は当局に対していろんな意見を言う、質問をするという場なんです。これは議長が全員協議会、議員間協議ということ

ですから、それぞれ議員間同士で、いや先ほどの意見に対してはということ、それはいいですよ、そういうことで。

○議長（植田博巳君）

結構です。

○12番（太田佳晴君）

それを踏まえて、今、問題になった部長が資料を一旦は出すということで、教職員のことなんですけれども、当然、議会から言われれば、当局側は、やはりそれに答えなければならないという一つの大きな意味使命があつて責任もあるので、ああいう形なんですけれども、私は気になるんです非常に、そこは。

というのは、あくまでも出さないよということで本音を出してということで、それで、教職員は、今回はある意味、進める側なんです。一番本体になっている教育委員会側の進める側。

だから、それは、その中で先ほど部長も最後に説明したように、教育長も含めて、本音を聞いてなるべく改善するよということなので、それをあえて、私は議会が必要以上にその部分を知ってどうするかなという、そういう疑問があるものですから、どうかなと思ったんですけれども。皆さん、どうかなと思います。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

太田議員はそういうふうにおっしゃいますけれども、私たち、やはり議員として、個人名というか特定されるようなものを要求しているわけでも何でもないし、あくまでも、どういう意見がこの学校再編について、教師の皆さんが考えているのかという、そうした教育委員会のほうも生の教師の声が聞きたいということでやられたアンケートですので、そういった意味では、まさにアンケートをそのまま受け取っているわけなので、それは生なんですけれども、それを事務局のほうでまとめてくれるということで、決して個人名を特定するわけではないし、そういった中で、どのような、今現状の中で教師の皆さんが、この学校再編計画というものに対して考えている、どこまで理解も含めて考えているのかということ、やはり知るということは、非常に私たちの学校再編計画に対して判断する一つの材料にはなるのかなと。

パブコメなんかも、こうした市民の皆さんから多くの意見が出てきたというのを見ながら、やはり考えるべきものだというふうに思いますので、当然、同様な資料として欠かせないものかなというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

私は、先ほど信頼関係を損ねると申し上げましたけれども、教育総務課主任の方がお話の中で、小さな学校、それから大きな学校とか、そういった中で判断されてしまう可能性がすごくあるの

で出さないということでアンケートをお願いしたと、そのように説明がありました。

そういった中で、あえて、今後、教育委員会に出された今の先生方の本音の部分は、これからのいろんな形で十分に生かしていくというふうにおっしゃっているわけですから、私は、今回、出さないと言ってアンケートを取ったものというのは、その辺は大事にしなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

先ほど太田議員が言ったように、本当に議会から言われると出さないわけにはいかないのに、大変な苦労だと思います。

もし、先ほど部長が出すとおっしゃったけど、これから校長会とかああいうところにきちんと説明をして許可を取らなきゃならないわけですから、いろんな意味で大変かなと思うので、その辺はちょっと考慮したほうがいいと思います。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

教育長も言われたんだけど、その辺のところは十分配慮した上での提出ということですので、なぜここで、そういうような議論になるのか、今まさに学校再編計画に対して議会としてどういうふうに考えるのかという、そういう討議をしようということだというふうに思うんですけども。何か、ここで時間が過ぎてしまうなという気がするんですけども。

○議長（植田博巳君）

種茂議員。

○8番（種茂和男君）

非常にデリケートな問題なんですけど、一番その点の学校の先生方のご意見を聞く、また、その判断を実際誰がするかというので、例えば10校が一つになるものですから、先生の数だとか、教員の若手のほうはいいんですけど、今後、我々が説明を受けた中でも、今まで校長が10人、教頭が10人、それが校長と教頭で1人ずつとすると、これから10年先の、やはり45から50代の教職員で非常にデリケートな動きがあるんじゃないかなということで、やはり教育委員会にしても、議員の我々の立場でも慎重に見守って、今の教職員の立場をよく理解してあげた上で、どういうふうに対処していくのか、とにかく職場というのか、学校、クラス云々といいますけれども、そんなに人数的には教職員のほうも、今後、採用をどういうバランスで採用していくのか分かりませんが、そういった人員調整をしつつ、現時点の40代後半から50代の今後校長になるとか、教頭になるとか、今までは教育委員会に行けばこういうふうに自然と自分のポジションが約束されているのが、されていなくなるような状況になってくるものですから、今、いろんな課のほうで慎重に対処していると思いますけれども、我々のほうも慎重に見ながら先生方のそういった人事的な部分、よく見ていかないと大変な問題になるというのが、いろいろ現にやっている学校の校長なり、そこの市長にお伺いしたこともありまして、そういうのを慎重に対処しないとイケないなと思っております。

○議長（植田博巳君）

今は先生のアンケートをいただいた中を議会として求めるか求めないかという議論ということで、ちょっとそれに集中していただきたいと思います。

現実的に、教育総務課のほうでは、先生との約束の中でアンケートをいただいているというお話であります。

一方で、資料1の中には、教職員のアンケートの中に意見の傾向ということで、3項目だけは書いてあるんですけども、生を出してないからこれは出したということだと思うので、この傾向について、ある程度、もう少しちょっと、まだ3項目なんですけれども、それをちょっと肉づけしてくれる程度とか、そんな形でしか出ないのかなとは思いますが、教育委員会のほうで、今の形で、どういうふうな形でまとめるか、ちょっと分かりませんが、実際のところ、何もこのアンケート結果が分からないと。この3項目は分かっていますけれども、傾向は、というのもあるのかなと思いますので。

どうなんでしょうかね。意見の傾向として、もう少し肉づけしていただいて、アンケートそのものを出すということは絶対に無理だと思いますので、ある程度の要約したやつで出させていただくということで、どうでしょうかね。

○14番（大石和央君）

それは、教育総務課が、資料を出すということだったので。

○議長（植田博巳君）

どうですかね。今、私が言った意見の傾向で、ここ3項目出ていますけれども、これに匹敵するやつをまだ何項目か出していただくというのはどうですかね。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

別にごねているわけではないし、先ほどから言うように、やはり議会からお願いすれば、当然、出すしかないんです、当局側は。出さない理由というのはないので。

でも、その間にどれだけご苦労されるかということも、我々は考えなければならないと思うし、それで、そもそも一番最初から、あり方検討委員会でしたか、それには校長として代表が入っているので、入ってきてこれを進める側でいた先生方なので、基本的にはこの方向でいくということなんですけれども、やはりその中に先生側達も教育委員会の指示があれば動くしかない中で、本当の本音というのを多分知りたかったと思うんです。

それで、よりいい学校再編に結びつけたいということなので、それが我々にとって、どれだけ、意見を聞ければ、それはそれで参考にはなるんですけども、どういうものかなと思ったので。

いいです、議長の判断でやってくれば。

○議長（植田博巳君）

この学校再編というのは、平成29年からずっと続けてきているわけで、その中でも説明があったように118回の4,000人以上、それが今回はまたパブコメ、そして新たに出てきた教職員のアン

ケートというような形で、相当の数、それで皆さんが、これ以上の周知のほうをもっとやりなさいよということで、今後、基本構想の中での検討というのが相当の数の意見を聞いた中で進められるとは思っております。

それで、委員の中にも校長先生が2人かな、3人程度入って、公募の方も入っていて、地区の代表の方も入っていて、この再編計画については協議され、そして各会場で市民の多様な意見を聞いたというような中で策定されていますので、この方向での最終案ということで示されました。その中で、教職員のアンケートについては信頼関係の条件付きで、やはり何でも、これはこの案件以外は使用しませんとかと、必ず書く状況の中では、やはりほかには流用できないということですので、教育委員会が考える中のそれに抵触しない範囲の意見をいただくというようなことでよろしいでしょうかね。

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

今、議長が言ってくれたようなことを補足でまた伝えてあげたほうがいいと思うんですね。

それでないと、もっといっぱい出さなきゃいけないと思うので、後で話し合ったときにこうだよということを言ってもらったほうがいいと思います。

○議長（植田博巳君）

分かりました。

そんな形で、よろしいですか。ちょっと後で補足をしてくるということで。

そのような形で進めさせていただきたいと思います。

本当に活発なご意見、ありがとうございます。

これで（1）の再編計画については終了したいと思います。

3 その他

○議長（植田博巳君）

3のその他、何かありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（植田博巳君）

その他、ないようですので、これで全員協議会を閉会といたします。お疲れさまでした。

〔午後 4時17分 閉会〕